

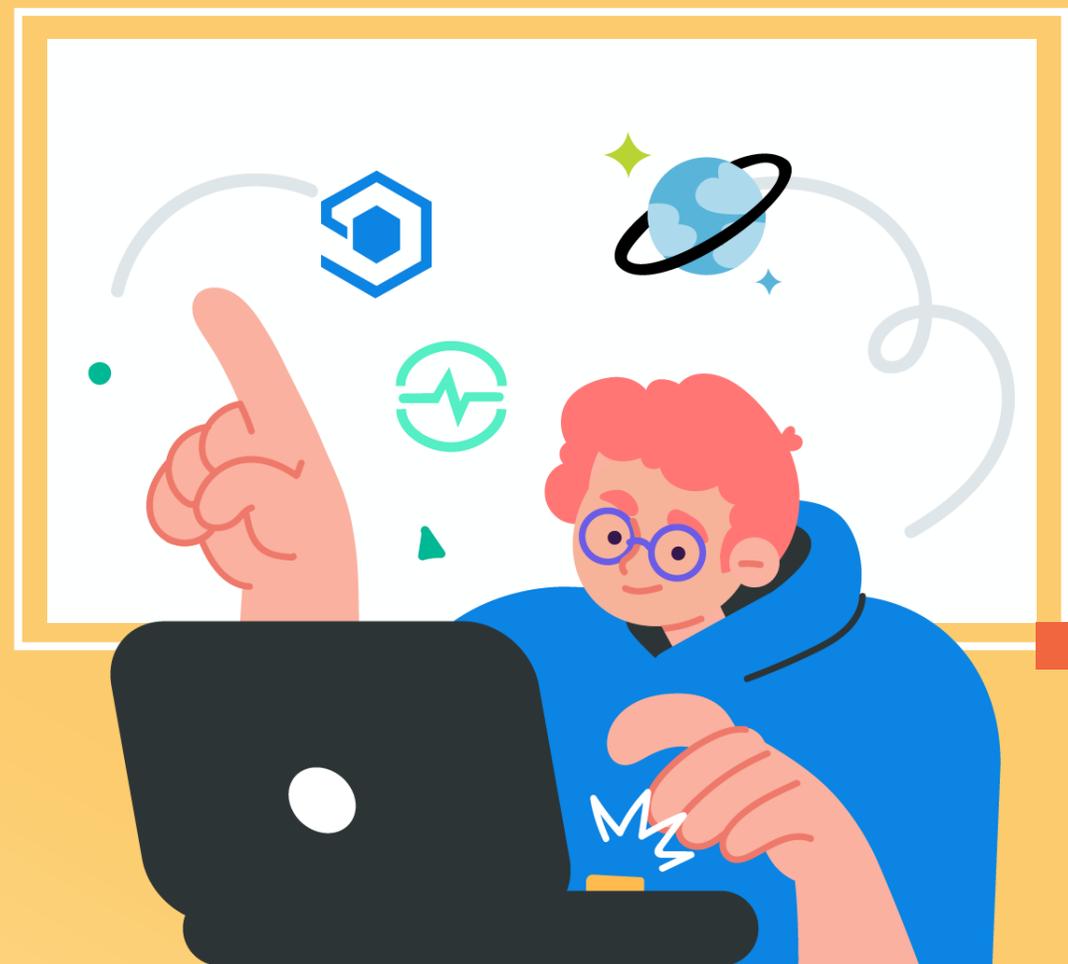
CP-TECH MAGAZINE

2021年7月

AZURE テクニカルアップデート情報誌

July, 2021

東京エレクトロンデバイス株式会社



TEDより お役立ち情報をお届け

TED CSP テクニカルアップデート情報誌
2021年7月

東京エレクトロンデバイス株式会社



目次

TEDよりお役立ち情報をお届け

Hot Topics

1. Ignite 2021での発表—Azure Percept

オンデマンドウェビナー配信情報

1. メルカリ、Francfranc、ブリヂストンなど事例多彩！
Azure AI Days (5/19~5/20)
2. 自動車業界向けオンデマンドウェビナー Automotive Webinar

情報HUB

1. Windows Virtual Desktop がAzure Virtual Desktop へと進化
2. Azure Virtual Desktop Quick Start Tool (Public Preview)(1)
3. Azure Virtual Desktop Quick Start Tool (Public Preview)(2)
4. Azure Virtual Desktop Quick Start Tool (Public Preview)(3)
5. Azure ハイブリッド特典のご紹介 (1)
6. Azure ハイブリッド特典のご紹介 (2)
7. Azure ハイブリッド特典のご紹介 (3)
8. Azure ハイブリッド特典のご紹介 (4)
9. Azure ハイブリッド特典のご紹介 (5)
10. Azure ハイブリッド特典のご紹介 (6)

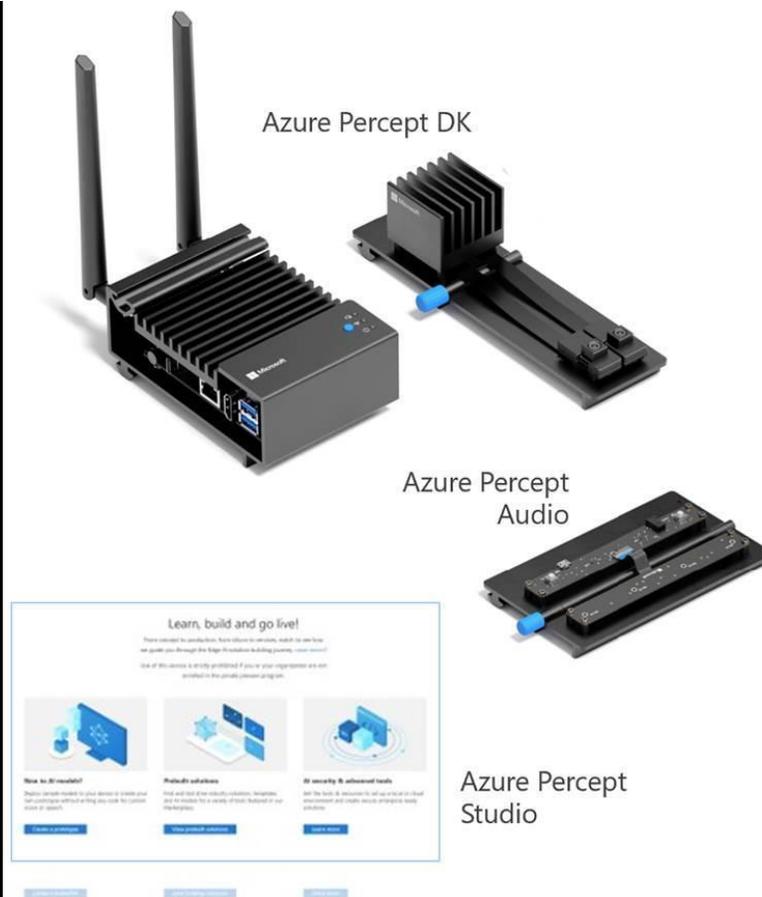
Ignite 2021での発表—Azure Percept

Azure Percept は、認識ベースの AI を構築してエッジにデプロイするためのエンド ツー エンド ソリューションです。

Azure Percept

AI および IoT サービスとシームレスに統合されたハードウェア アクセラレータを使用して、概念実証を数分で開始

1. 完成されたエッジ AI プラットフォームで変革を
Azure AI および IoT サービスと統合されたハードウェア アクセラレータを含む、エンド ツー エンドのエッジ AI プラットフォーム
2. エッジ AI ソリューションをシームレスの構築・管理
エッジ AI ライフサイクル管理サービスと事前構築された AI モデルにより、プロトタイプから本番まで数分で対応
3. 最新のセキュリティを意識したデザイン
Microsoft ゼロトラスト セキュリティ モデルを使用したハードウェアの信頼ルートで転送中および保存中の機密データを保護



Azure Percept は、IoT と AI をエッジで使用してビジネス変革を促進するために設計されたハードウェア、ソフトウェア、およびサービスのファミリです。Azure Percept はシリコンからサービスまでの完全なスタックをカバーし、大規模なエッジ AI の統合に関する課題を解決します。

エッジ AI ソリューションを大規模 にデプロイしようとする際の統合に関する課題は、次の3つの主要な問題としてまとめられます。

- ソリューションを強化するための適切なシリコンの特定と選択。
- ハードウェア、ソフトウェア、モデル、データの全体的なセキュリティを確保すること。
- シームレスに動作するソリューションを、規模に応じて構築し、管理する能力。

詳細は [こちら](#)

Igniteの発表内容は [こちら](#) ▶ [Microsoft Ignite 2021 Book of News \(英語\)](#)

メルカリ、Francfranc、ブリヂストンなど事例多彩！ Azure AI Days (5/19~5/20)

Update



名称	Azure AI Days
開催日時	[Day 1] Business Leaders Session : 2021年5月19日(水) 13:00 ~ 17:45 (予定) [Day 2] Data Scientist Session : 2021年5月20日(木) 13:00 ~ 17:45 (予定)
開催形式	オンライン開催
主催	日本マイクロソフト株式会社
対象者	経営マネジメント層、ビジネスリーダー層、CTO、CIO、CDO、データ分析部門、データサイエンティスト、情報システム部門、エンジニアの皆様
参加費用	無料(事前登録制)

基調講演

Day1

- ・ マイクロソフトが実現する「AI for All」の世界
日本マイクロソフト株式会社 Azure
ビジネス本部 業務執行役員 本部長 上原 正太郎
プロダクトマーケティングマネージャー 樋口 拓人
- ・ DL (Deep Learning) for DX
一般社団法人日本ディープラーニング協会 理事長 松尾 豊

Day2

自然言語処理の動向と最新技術事例
日本マイクロソフト株式会社
技術統括 執行役員 最高技術責任者 榊原 彰
マイクロソフトディベロップメント ソフトウェアテクノロジー
センタージャパン 須藤 広大/中島 晃浩
rinna 株式会社 Research Researcher Tianyu Zhao

視聴はこちら▶ <https://aka.ms/AzureAldays21>

2020年、世界は感染症というかつてない試練に対峙しました。このような状況下で企業のデジタルトランスフォーメーションはこれまでにないスピードで加速し、さまざまな企業がデータに基づいた意思決定を行うため、Azure AI を本格的に導入しレジリエントな組織へ変革しています。DX を実現した企業が Azure AI を活用し、どのようなビジネス価値を生み出したのか。Azure AI Days では、2日間に分けてAI により変革を遂げた数々の企業の挑戦をご紹介します。

自動車業界向けオンデマンドウェビナー Automotive Webinar

過去に開催したウェビナーを、オンデマンドで提供しておりいつでも視聴いただけます！皆様の関心のあるタイミング・トピックに合わせて、ご活用ください。

No.	セミナータイトル	講師
第1回	自動車生産技術へのAI適応 最新事例ご紹介ウェビナー	Automotive Industry Solution Manager 内田直之 
第2回	自動車業界のセキュリティ全体最適とは？組織におけるセキュリティ施策の戦略をあらためて考察します！	Automotive IE 保田啓 
第3回	エンタープライズDevOpsとは？自動車産業のDevOps最適化と、企業の成長戦略に取り込むアイデアをご紹介します！	Automotive IE 保田啓  GitHub 田中裕一 
第4回	メルセデスベンツ事例を徹底解剖 ～自動車販売のDX最前線～	Automotive IE 藤巻好子  Business Solution Specialist 鈴木泉 
第5回	ニューノーマル時代、「サプライチェーンの多元化」は必ずしも強靱化の答えにつながるのか？	Automotive IE 蒲原照幸  株式会社ジール 永田亮磨 氏 
第6回	早分かり！ニューノーマルにおける新たな働き方を支えるマイクロソフトのソリューション（自動車業界向け）	MWP Solution Specialist 船本有那  MWP Surface Specialist 田中健一 
第7回	Microsoft AI による自律システムの開発 - Project Bonsai -	Automotive ATS 渋谷青巨 
第8回	【マイクロソフト+フォルクスワーゲン 講演・対談】 自動車とモビリティの変革を実現へ	マイクロソフト GM for Automotive Industry, Sanjay Ravi  Volkswagen Automotive Cloud, CTO, Zoran Lazovski 
第9回	【米国メルセデスベンツによる Mixed Reality 導入事例】 いつでもどこでも最新アップデートできるアフターサービス	マイクロソフト GM for Automotive Industry, Sanjay Ravi マイクロソフト Americas Mixed Reality Sales Lead, Rody Senner, 米国メルセデスベンツ VP for Customer Services, Christian Treiber

Azure
NEW!

Windows Virtual Desktop が Azure Virtual Desktop へと進化

より柔軟なCloud VDIプラットフォームを提供するというビジョンのもと、
“Windows Virtual Desktop”は“**Azure Virtual Desktop**”に名称変更いたしました



Azure Virtual Desktop
ハイブリッドワークプレイスのためのクラウドVDIプラットフォーム



主な発表内容

- ◆ Azure AD join 対応 (Public Preview 準備中)
- ◆ Microsoft Endpoint Manager for Windows10 Multisession (Public Preview)
- ◆ Quick Start Tool—ARMから数クリックでAVD環境をデプロイ
- ◆ 外部ユーザー向け 新価格体系
“社外ユーザー”へのApps or/and Desktopの利用ライセンスをAs a Serviceで提供
 - \$5.50 1ユーザー1月当たり (Apps)
 - \$10 1ユーザー1月当たり (Apps + Desktop)
- ◆ 【特別プロモーション】
2021/7/14 – 2021/12/31の間、上記のアクセス利用料が \$0 に!!

詳細はこちら ▼

[Azure Virtual Desktop | Microsoft Azure](#)

発表の詳細 ▶ [Azure Virtual Desktop: The flexible cloud VDI platform for the hybrid workplace \(英語\)](#)

Azure Virtual Desktop Quick Start Tool (Public Preview)(1)

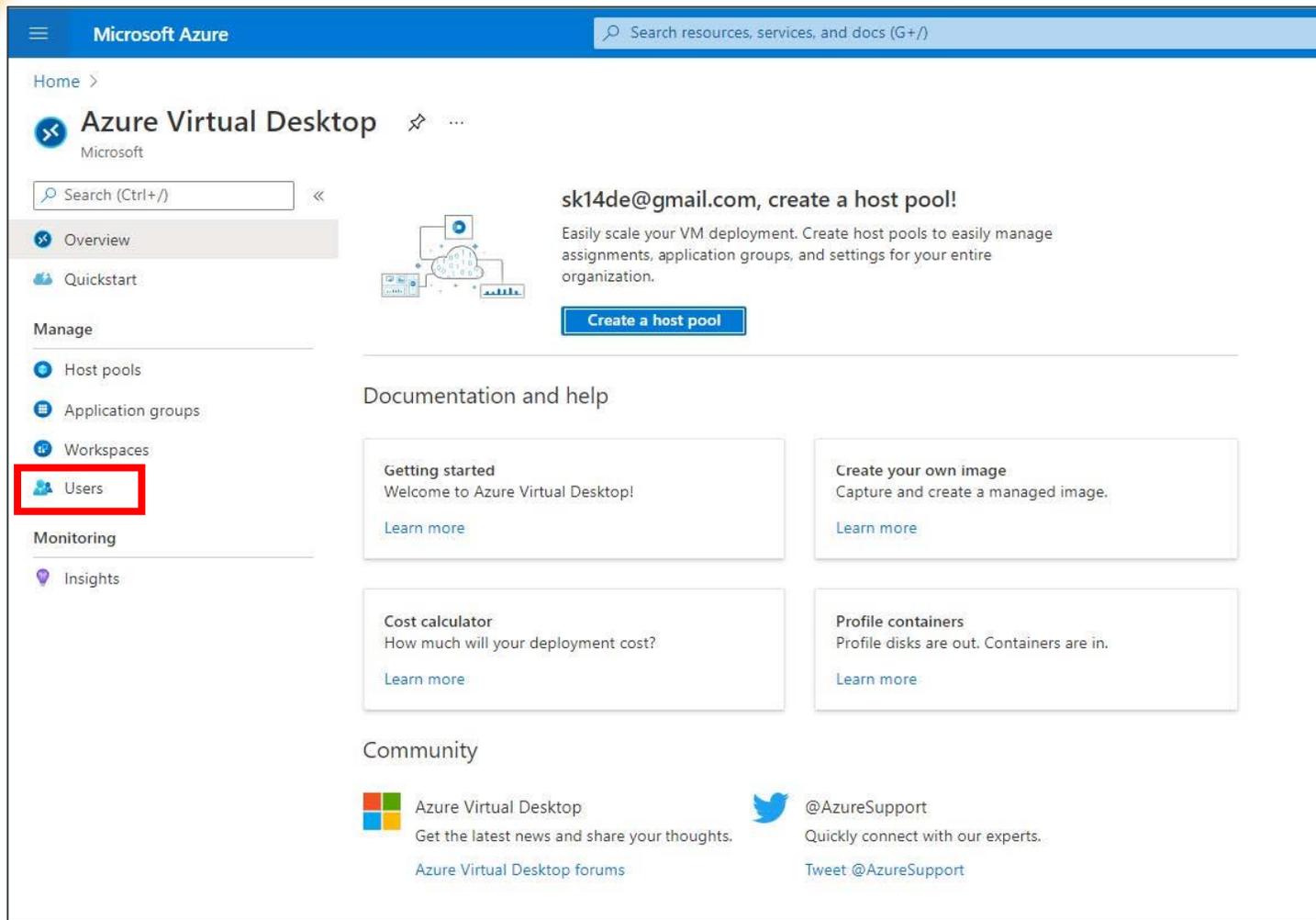
Windows Virtual Desktop が Azure Virtual Desktop になって Quick Start Tool も進化しました！

- ARMの中に、"Quickstart tool"が組み込まれることで展開ステップを簡素化



- 最小限のパラメータのみでAVD環境をデプロイ
 - ❑ Azure サブスクリプション、既存ADDS/AADDS、新規AADDS作成、vNet、マシンスペック、etc
 - ❑ FSlogixの基本パラメータも設定
- ベースの環境をQuickstart toolでデプロイし、必要なカスタマイズを後で加えることで構築時間の大幅な削減を実現

Azure Virtual Desktop Quick Start Tool (Public Preview)(2)



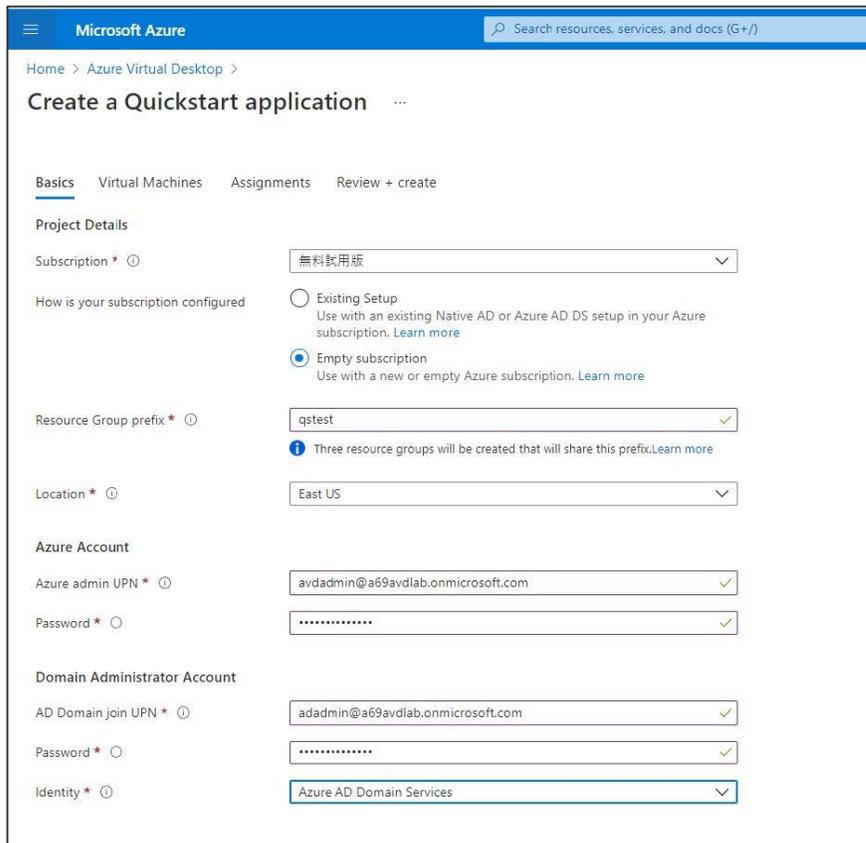
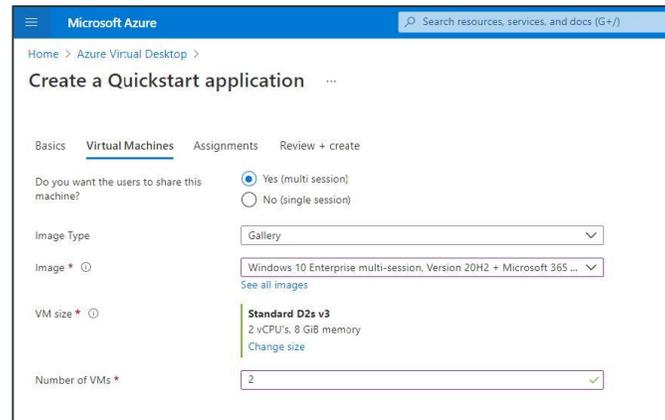
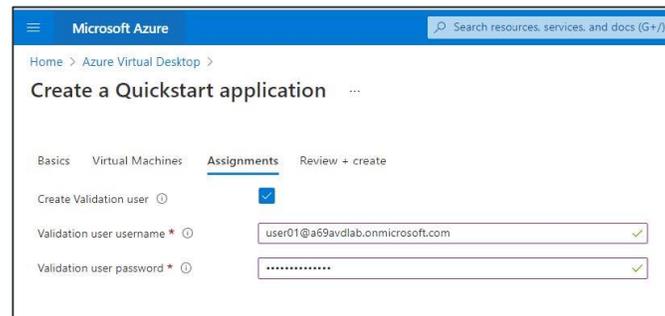
- 最小のパラメータの入力のみ**
 最小限のパラメータでAVDの環境構築を完了 Quick Start を利用しなければ要件にあった Optional な設定を加えることも可能
- よりシンプルな手順で環境構築**
 展開AVDのオブジェクト (Hostpool / Workspace) 作成が不要なので AVD をよく知らなくても簡単に展開
- 検証環境展開などに最適**
 新規Azure環境であれば必要な vNet や Azure ADDS などの展開、ユーザー作成からアサインも含まれる

Public Preview中はこちらからQuick Startの利用が可能です。

[Azure Virtual Desktop](#)

Azure Virtual Desktop Quick Start Tool (Public Preview)(3)

必要な入力パラメーター

Getting started wizard in Azure
Virtual Desktop

注意点

- Azure AccountにはAADのグローバル管理者権限 + サブスクリプションへのOwner権限が必要
- サブスクリプションへのProvider Service "Microsoft Virtual Desktop"が登録されていること
- Azure ADDSのドメインプレフィックスは15文字以内の制限あり
※ 長すぎるドメイン名だとAADDS展開に失敗
- Domain Administrator Accountは新規作成する場合、AAD内の既存のユーザーとユーザー名が重複しないこと
- 既存ADを選択する場合、AVDを展開するサブスクリプション内のADのみ選択可能
※ 別のサブスクリプションのADはたとえvNet Peeringなどで接続していても選択できない

利用の前提条件なども記載されております。
ご確認の上ご利用ください。

Azure ハイブリッド特典のご紹介 (1)

Azure ハイブリッド特典は、クラウドでワークロードを実行するコストの大幅な削減に役立つライセンス特典です。これによって、ソフトウェア アシュアランスが有効なオンプレミスの Windows Server と SQL Server のライセンスを Azure でも使用できるようになります。さらに、この特典が RedHat と SUSE Linux のサブスクリプションにも適用されるようになりました。



Windows Server と SQL Server 向けでは、AWS は Azure と比べて 5 倍のコストがかかります(*一定の条件のもと算出。詳細はWebページ)

[> 詳細情報](#)



Windows Server と SQL Server のオンプレミス ライセンスを Azure に移行することで、標準の従量課金制の料金と比べて最大 85% 節約できます

[> 詳細情報](#)

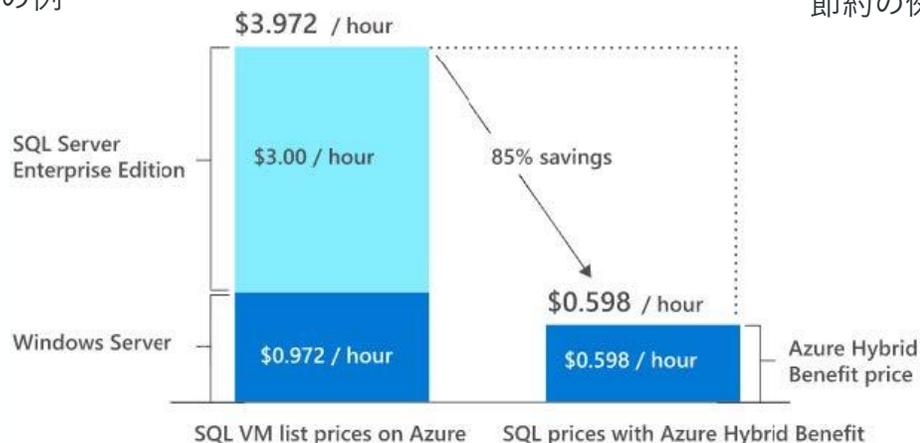


Azure ハイブリッド特典、予約価格、拡張セキュリティ更新プログラムを組み合わせることにより、保有コストを最小限に抑えることができます

[> 詳細情報](#)

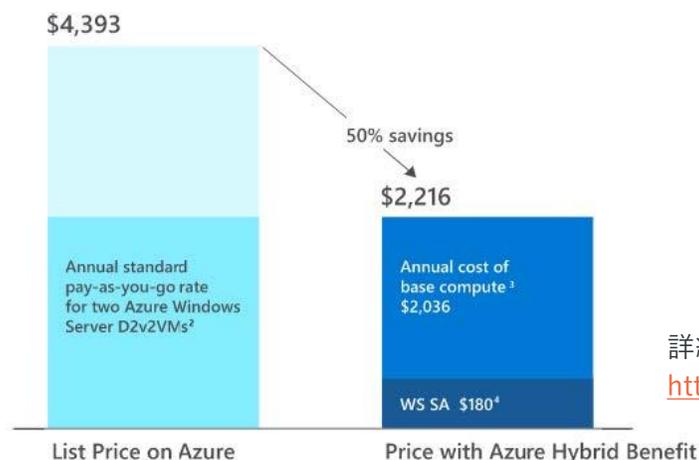
SQL Serverでの節約の例

SQL Server Enterprise Edition Savings Example



Windows Serverでの節約の例

Windows Server Savings Example



詳細情報▼

<https://azure.microsoft.com/jaip/pricing/hybrid-benefit/>

Azure ハイブリッド特典のご紹介 (2)

Azure 仮想マシン上での SQL Server の利用について

Azure 仮想マシンの Windows Server 上に SQL Server をセルフ インストールし利用するには、**Azure ポータル上で SQL VM リソースプロバイダーへの登録が必要**です。

登録には、SQL Server IaaS Agent 拡張機能を利用した自動登録が便利です。

SQL IaaS Agent 拡張機能のメリット

コンプライアンス準拠

Azure VM で稼働している SQL Server をすべて 1 か所でまとめて確認でき、ライセンスの種類を容易に確認できます。

- インベントリ管理
- ライセンス体系の管理 (従量課金・Azure ハイブリッド特典)

セキュリティの強化

セキュリティ更新プログラムの適用を管理し、暗号化機能との連携をシンプルにします。

- メンテナンス時間の設定によりセキュリティ更新プログラムの自動適用
- Azure Key Vault との統合

稼働率の向上

バックアップの自動化、高可用性の容易な構成、HA/DR に関するライセンス特典の活用を通じて、稼働率を向上します。

- 自動バックアップ
- 高可用性 (HA) 構成の自動化
- SA特典の DR ライセンス特典の有効化

管理の簡素化

ストレージのベスト プラクティスに従って、ストレージの設定を SQL Server に最適化できます。

- ストレージ管理の自動化
- SQL PaaS を含めた管理の一元化
- ベストプラクティスの適用

登録方法

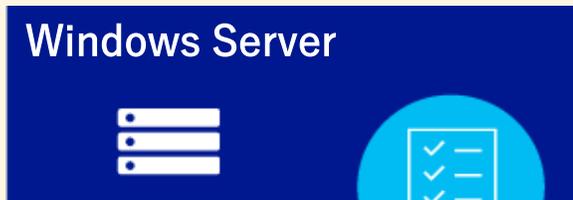
1. Azure portal にサインインします。
2. [SQL 仮想マシン] リソース ページに移動します。
3. [SQL Server VM の自動登録] をクリックして [SQL Server VM の自動登録] ページを開きます。
4. サブスクリプションを選択します。
5. [使用許諾契約書の条項に同意する] にチェックを付け、[登録] をクリックします。



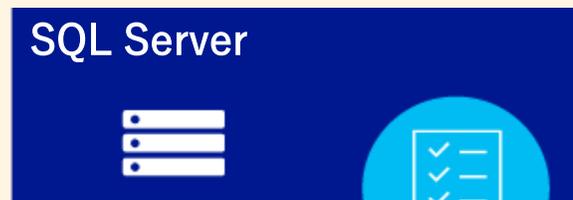
Azure ハイブリッド特典のご紹介 (3)

Azure Marketplace のイメージを利用せず、独自に作成したイメージにおいて、オンプレミス ライセンスを Azure で活用する場合

カスタムで作成した Windows Server / SQL Server が含まれるイメージを Azure で利用し、オンプレミスのライセンスを活用する場合は、有効なソフトウェア アシユアランスが必要です



ライセンス
+ ソフトウェア アシユアランス



ライセンス
+ ソフトウェア アシユアランス

ソフトウェア アシユアランスとは

<https://www.microsoft.com/Licensing/licensing-programs/software-assurance-default>

有効なソフトウェア アシユアランスがない場合は



1. 従量課金等でAzureの利用料とともに支払う
2. ソフトウェア アシユアランスを購入する

VHD をアップロードして Azure で新しい VM を作成する方法は、[こちら](#)
Windows Server 向け Azure ハイブリッド特典で VM を設定する方法は、[こちら](#)
SQL Server 向け Azure ハイブリッド特典で VM を設定する方法は、[こちら](#)

ソフトウェア アシユアランス があれば



Azure ハイブリッド特典

が利用できる!

Azure ハイブリッド特典を利用するには



Azure 上で Azure ハイブリッド特典の
利用を設定する必要があります

Azure ハイブリッド特典のご紹介 (4)

Azure ハイブリッド特典を利用する理由 Linux (2020年11月発表)

既存のオンプレミスの Red Hat または SUSE ソフトウェア サブスクリプションを Azure で使用できます。Azure でのみ、以下を実現できます。

- VM のインフラストラクチャのコストについてのみ支払いが必要です。ソフトウェアの料金は既存のサブスクリプションに既に含まれていて、Azure Marketplace におけるすべての Red Hat Enterprise Linux と SUSE Linux Enterprise Server の従量課金制イメージに適用されます。
- デプロイ後のシームレスな変換によって時間を節約できます。実稼働環境への再デプロイは不要です。
- イメージの自動メンテナンス、更新、パッチによって、継続的な運用コストを削減できます。
- Azure portal と CLI 間で統合された統一ユーザー インターフェイスや、スケーラブルなバッチ変換の利便性を活用できます。
- 1つのチケットだけで、クラウドで唯一の、Azure、Red Hat、SUSE の共同テクニカル サポートを利用できます。

Linux Server向け Azureハイブリッド特典とは？

「Azureハイブリッド特典」とは、お客様がオンプレミス環境からクラウド環境へ移行される際に、既にお持ちのサーバーOSライセンスをそのままBYOS (Bring Your Own Subscription)としてお持ち込みいただくことができるライセンス特典となります。このAzureハイブリッド特典は、これまでWindows ServerおよびSQL Serverのみが持ち込みライセンスの対象となっていたが、今回日本市場でもLinux OS市場のシェアの90%以上を占めるRed Hat Enterprise Server(RHEL)およびSUSE Linux Enterprise Server(SLES)が新たに対象となりました。

お客様へのメリット

- ✓ お客様はOSライセンスを買い直すことなくAzureへの移行が可能になり、最大約40%のライセンスコスト削減*が可能。
*料金計算ツールを使用した試算ベース。価格は変更される可能性があります。
- ✓ POCから本番環境へ、VMのRedeployment作業が不要。
- ✓ マイクロソフトによる、Linux OS (RHEL/SLES) VMへの自動メンテナンス、アップデート、パッチの適用。
- ✓ 統合されたサポートにより、お客様はワンチケットでAzureコンピューティングおよびLinux OSへのサポート享受が可能。持ち込みライセンス(BYOS)も含め、Azure Portalでライセンスの一元管理が可能。

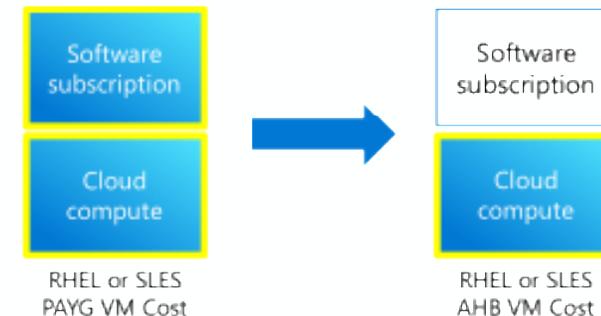
詳細情報▶ <https://azure.microsoft.com/ja-jp/pricing/hybrid-benefit/>

Seamless conversion and automatic updates with no downtime



Azure ハイブリッド特典を利用することで
最大 40%* コスト削減

*料金計算ツールを使用した試算ベース



ライセンス買い直し回避によるコストの削減

Azure ハイブリッド特典のご紹介 (5)

Linux Server向け Azureハイブリッド特典適用条件・お申し込み方法

- 適用対象：RHEL or SLES subscriptionsをご利用中のRed Hat Enterprise Linux (RHEL) または SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 顧客。
*現時点ではAzure MarketplaceのPAYG(Pay As You Go)ライセンスをお持ちのお客様のみが対象。
- お申し込み方法：
 - Red Hatのお客様
 - Red Hat Cloud Access のカスタマー インターフェイスを使用して、対象となるRHEL サブスクリプションを Azure で使用できるようにします。
 - Red Hat Cloud Access 有効化プロセス中に指定した Azure サブスクリプションが、Azureハイブリッド特典機能を使用できるようになります。
 - Azure ハイブリッド特典を、既存の RHEL PAYG VM のいずれか、および Azure Marketplace PAYG イメージからデプロイする任意の新しい RHEL VM に適用します。
 - RHEL VM の更新ソースの構成、および RHEL サブスクリプションのコンプライアンス ガイドラインについて、は、[次の推奨される手順](#)に従ってください。
 - SUSEのお客様
 - SUSE Public Cloud プログラムに登録します。
 - Azure CLI を使用して、既存の VM に特典を適用します。
 - 特典を受けた VM を別の更新ソースに登録します。

*詳細はこちらの[Website](#)をご確認ください。

上記のマテリアルなどをご活用いただき、お客様に対し

「**AzureがWindows ServerだけでなくLinux Serverについても最適なクラウドプラットフォームであること**」、
「**今回のLinux Server向けAzureハイブリッド特典を通じてお客様はコストを最適化しながらAzureに移行いただけること**」
をご案内ください。

関連情報・マテリアル

PR：

Official Blog：<https://news.microsoft.com/ja-jp/2020/11/19/201119-launched-new-cloud-migration-support-measures-for-linux-server-users/>

Cloud Watch：<https://cloud.watch.impress.co.jp/docs/news/1289998.html>

マテリアル：

Linux on Azure 概要ページ：[HERE](#)

New! Azure料金計算ツール：[HERE](#)

New! Azureハイブリッド特典for Linux デモビデオ(Customer Ready)：[HERE](#)**

New! Azureハイブリッド特典for Linux 適用方法(Customer Ready)：[HERE](#)

Updated! Azureハイブリッド特典 概要ページ (Customer Ready)：[HERE](#)

**現時点では英語版のマテリアルになります。



料金計算ツール

Azureハイブリッド特典を利用した際の見積もりが可能!

料金計算ツール

Azure ハイブリッド特典のご紹介 (6)

何が新しいの？

Azure ハイブリッド特典による Windows Server と SQL Server のライセンスの持ち込みはこれまでも可能でした。今回、新しく登場した SQL Server IaaS Agent 拡張機能により、より簡単に SQL Server のライセンスを Azure 上で利用することが可能となります。

これまで：PowerShell を活用した AZ コマンドによる有効化が必要
これから：**Azure Portal 上から GUI 操作で簡単に有効化が可能！！**

また、セキュリティの強化や稼働率の向上、管理負荷の軽減など様々な追加機能も合わせてご利用可能です。

事例

Allscripts 社は、Azure ハイブリッド特典を活用して、オンプレミスの Windows Server および SQL Server 仮想マシン 600 台を Azure に移行することで、大幅な節約を実現しました。

"Azure Hybrid Benefit is very important to us for controlling our cost for our long running 24/7/365 applications. Through the use of Azure Hybrid Benefit, we'll be able to reduce our overall costs by up to 82 percent."

Allscripts、シニア プログラム マネージャー、Jeff Brady

[事例の詳細はこちら \(英語\)](#)



[事例の動画はこちら \(英語\)](#)

TEDより お役立ち情報をお届け

TED CSP テクニカルアップデート情報誌
2021年7月

東京エレクトロンデバイス株式会社



目次

Azure アップデート情報

Infrastructure as a Service

1. Azure BLOB ストレージ で NFS 3.0 プロトコルが一般提供
2. Azure BLOB インデックス タグ が一般提供
3. Azure Image Builder が一般提供
4. VPN に NAT 機能が追加

Platform as a Service

1. Azure Cache for Redis の ゾーン冗長の一般提供開始
2. Azure IoT Edge と Azure Monitor の統合がパブリックプレビュー
3. Azure Monitor Agent と Data Collection Rules の一般提供開始
4. Application Insights のアラートベースのスマート検知がプレビュー
5. Azure Maps Mobility Services が2021年10月に終了
6. Azure Functions / App Services で .NET6 がプレビュー使用可能

Identity and Security

1. Azure AD B2C セルフサービス パスワード リセットの提供
2. Azure AD B2C “サインインしたままにする (KMSI)” の提供
3. Access Review Graph API の提供開始
4. Azure AD の TLS 1.0/1.1/3DES 廃止について

Data Platform

1. Azure Database for PostgreSQL Flexible Server / MySQL Flexible Server
フレキシブル サーバーを無料アカウントでも利用可能に
2. Azure Data Factory & Azure Synapse Analytics
データフローに SQL Server が対応します
3. Azure SQL Database
ハイパースケールにて名前付きレプリカがプレビューで提供
4. Azure SQL Database & Azure SQL Managed Instance
Azure AD 認証のみに限定させることが可能に
5. Azure Cosmos DB
ログ上にクエリのフル テキストを表示することが可能に

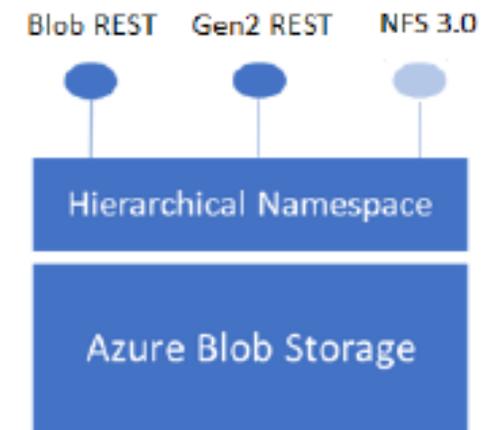
Azure BLOB ストレージで NFS 3.0 プロトコルが一般提供

一般公開

Infrastructure as a Service

- Azure BLOB ストレージでネットワーク ファイル システム (NFS) 3.0 プロトコルが利用可能になりました
- NFS 3.0 を有効にするとすべてのデータがブロック BLOB として保存されます
- 表に記載した設定内容でストレージ アカウントを作成する必要があります

設定	Premium	Standard
アカウントの種類	<ul style="list-style-type: none">• ブロック BLOB	<ul style="list-style-type: none">• 汎用v2
冗長性	<ul style="list-style-type: none">• ローカル冗長	<ul style="list-style-type: none">• ローカル冗長またはゾーン冗長
接続方法	<ul style="list-style-type: none">• パブリック エンドポイント (選択されたネットワーク)• プライベート エンドポイント	<ul style="list-style-type: none">• パブリック エンドポイント (選択されたネットワーク)• プライベート エンドポイント
階層型名前空間	<ul style="list-style-type: none">• 有効	<ul style="list-style-type: none">• 有効



ポイント

- NFS 3.0 はストレージ アカウントの作成時でのみ有効にすることができます
- 既存のストレージ アカウントに対して NFS 3.0 を有効にすることはできません

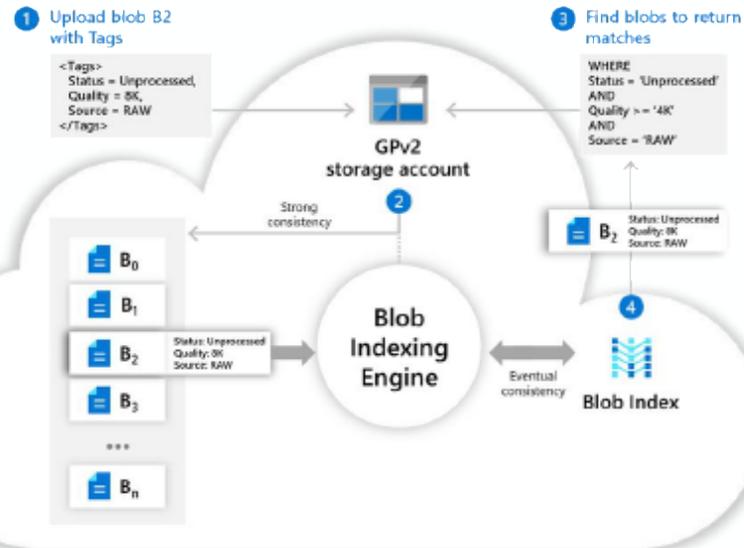
- Azure Blob storage—NFS 3.0 protocol support generally available
<https://azure.microsoft.com/ja-jp/updates/azure-blob-storage-nfs-30-protocol-support-generally-available/>

Azure BLOB インデックス タグ が一般提供

一般公開

Infrastructure as a Service

- BLOB コンテナに保存されている特定のオブジェクトに インデックス タグ を付与できるようになりました
- インデックス タグを用いることで必要なオブジェクトの検索を簡単に行うことが可能になります
- ライフサイクル管理の対象にフィルター処理、ABAC (プレビュー) でアクセス制御を行うことができます



ポイント

- 汎用v2 のストレージアカウントでのみ利用可能です
- 各 BLOB には最大で 10 個のインデックス タグを付与できます
- タグにはいくつかの制限があります
 - タグキーは 1 ~ 128 文字
 - タグ値は 0 ~ 256 文字
 - タグキーと値は大文字と小文字が区別
 - タグキーと値は、文字列データ型のみをサポート
 - 英数字と一部の特殊文字 + - . : = _ / が使用可能

- Azure Blob index tags now generally available

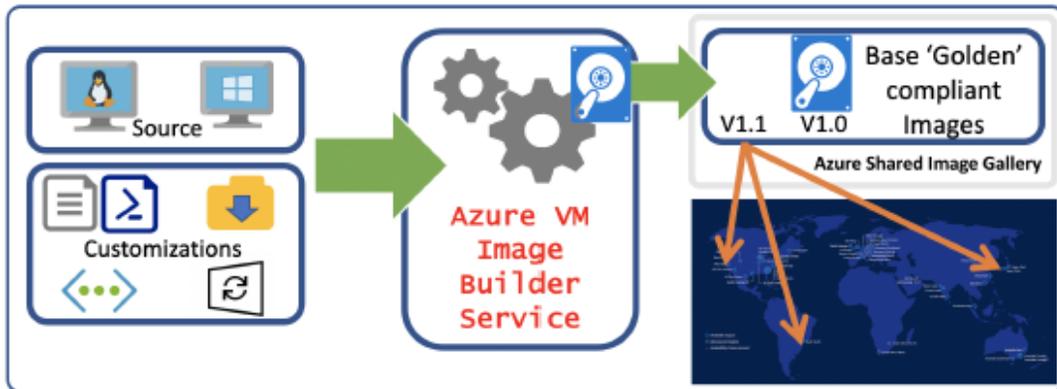
<https://azure.microsoft.com/ja-jp/updates/azure-blob-index-tags-now-generally-available/>

Azure Image Builder が一般提供

一般公開

Infrastructure as a Service

- 従来は仮想マシンを作成し、各種設定を実行した後 一般化の処理を実行してイメージを作成していました
- Azure Image Builder を利用すると、自動イメージ構築パイプラインを使用してイメージが作成できます
- Windows または Linux の Azure Marketplace イメージ または 既存のカスタム イメージ に対してカスタマイズが可能です
 - 例) PowerShell スクリプトの実行、シェル スクリプトの実行、Windows Update の実行



ポイント

- 以下のリージョンで利用可能です
 - 米国東部、米国東部2、米国中西部、米国西部、米国西部2、米国中南部、北ヨーロッパ、西ヨーロッパ、東南アジア、オーストラリア南東部、オーストラリア東部、英国南部、英国西部
- 以下の OS イメージで利用可能です
 - Ubuntu 18.04,16.04
 - RHEL 7.6, 7.7
 - CentOS 7.6, 7.7
 - SLES 12 SP4
 - SLES 15, SLES 15 SP1
 - Windows 10 RS5 Enterprise/Enterprise multi-session/Professional
 - Windows 2016, 2019

- Azure Image Builder Service now generally available

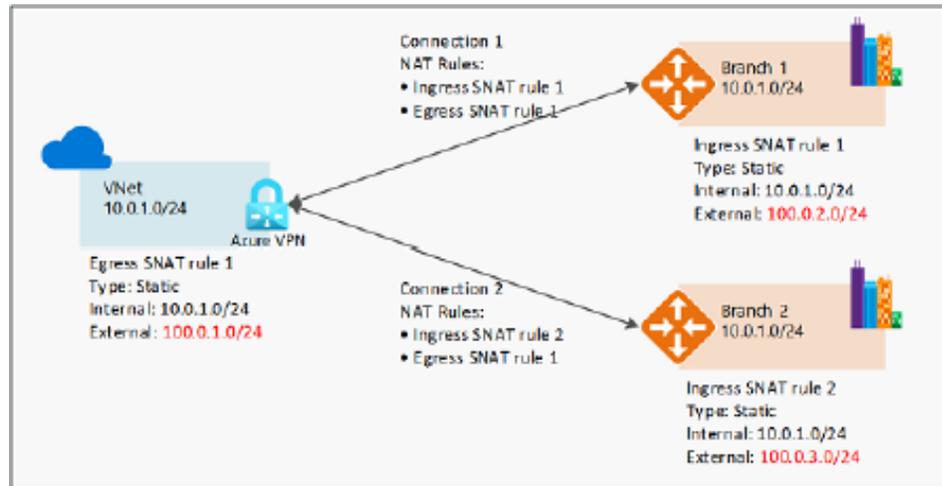
<https://azure.microsoft.com/ja-jp/updates/azure-image-builder-service-now-generally-available-2/>

VPN に NAT 機能が追加

プレビュー

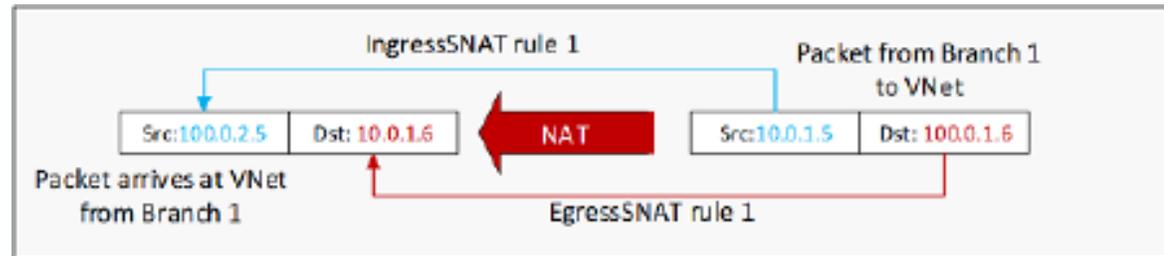
Infrastructure as a Service

- Azure VPN ゲートウェイに NAT (ネットワーク アドレス変換) 機能が追加されました
- オンプレミスと Azure 仮想ネットワークのアドレス空間が重複していても VPN 接続が可能になります
- 用語の説明
 - Ingress / Egress SNAT : オンプレミス / Azure 仮想ネットワークの通信を NAT する規則
 - Internal / External Mappings : 変換前 / 後のアドレス空間



ポイント

- VPN NAT は VpnGw2~5 および VpnGw2AZ~5AZ でサポートされています
- VPN NAT は静的 NAT でのみ使用可能です
- 接続リソースに NAT 規則を紐づけた場合に有効になります



- VPN NAT now in public preview
<https://azure.microsoft.com/ja-jp/updates/vpn-nat-in-public-preview/>

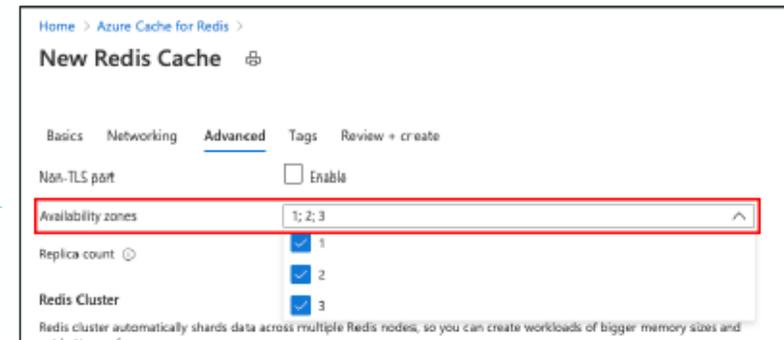
Azure Cache for Redis の ゾーン冗長の一般提供開始

一般公開

Platform as a Service

- Azure Cache for Redis プレミアム層で使用できるゾーン冗長は、キャッシュを複数の可用性ゾーンに展開して、可用性を高めることができます。
- プレミアム層ではゾーン冗長に加えてレプリカノードを追加することで、冗長性を高めることができます。
- ゾーン対応のキャッシュは、選択したゾーンにレプリケートノードを自動的に分散します。これにより、データセンターレベルの問題や停止に対する耐性が向上します。
- 利用にあたっては、「[ゾーンの冗長性を有効にする](#)」と「[レプリカを追加する](#)」のドキュメントを確認してください。
- [高可用性](#)のドキュメントでは、Azure Cache for Redis がサポートするさまざまなオプションについて説明しています。

Availabilityの選択が可能に



- Azure Cache for Redis zone redundancy for Premium tier now generally available
<https://azure.microsoft.com/ja-jp/updates/azure-cache-for-redis-zone-redundancy-for-premium-tier-now-generally-available/>

Azure IoT Edge と Azure Monitor の統合がパブリックプレビュー

プレビュー

Platform as a Service

- Azure IoT Edge デバイスの監視とトラブルシューティングを簡素化するために、Azure Monitor との統合をベースにした Azure IoT Edge 監視ソリューションのパブリックプレビューを開始しました。
- 以下の機能が提供されています。
 - ソリューションの効率性を分析する
 - デバイスのパフォーマンス要求に合わせたハードウェアの選択
 - カスタムメトリクスとダッシュボードの作成
 - ロックダウンされた資産の監視
 - クラウドとエッジの監視を統合
 - メトリクスベースのアラートで問題をプロアクティブに特定
 - 問題の迅速なトラブルシューティング
- 新機能のガイドツアーについては、ブログ記事または IoT Show のエピソードをご覧ください。



- Azure IoT Edge integration with Azure Monitor is now in public preview <https://azure.microsoft.com/ja-jp/updates/iot-edge-azure-monitor-pp/>

Azure Monitor Agent と Data Collection Rules の一般提供開始

一般公開

Platform as a Service

- 新しい Azure Monitor Agent (AMA) と Data Collection Rules (DCR) は、粒度の高い柔軟な設定だけでなく一度の収集で Log Analytics と Azure Monitor Metrics の両方に送信(マルチホーミング) などデータ収集の主要領域を強化しています。
- DCR では、どのようなデータを収集し、どこに送信すべきかを定義するルールを定義することで、これを簡単に行うことができ、データソース、変換先のどちらにも依存しないため、必要に応じてきめ細かなデータ収集を柔軟に設定することができます。
- 今回のアップデートでの新機能は以下の通りです。
 - Azure Monitor の一般的に利用可能な機能に期待される生産品質、セキュリティ、コンプライアンス。
 - Azure Monitor がサポートされているすべてのパブリック リージョンでサービス提供。
 - より高い EPS (events per second) のアップロードを可能にするパフォーマンスとスケールの改善。

以下の機能は引き続きプレビューです。

- Azure Monitor Metrics を送信先として使用する。

- Azure Monitor Agent and Data Collection Rules now generally available
<https://azure.microsoft.com/ja-jp/updates/azure-monitor-agent-and-data-collection-rules-now-generally-available/>

Application Insights のアラートベースのスマート検知がプレビュー

プレビュー

Platform as a Service

- Azure Monitor Application Insights のスマート検出は、テレメトリの分析を実行し、潜在的なパフォーマンス障害の異常を自動的に警告します。
- アラートベースのスマート検出がパブリック プレビューとして提供され、Application Insights のユーザーは、リソースを新しいスマート検出のバージョンに移行することができます。
- Application Insights のリソースを移行すると、他の Azure Monitor のアラート ルールと同様に、これらのルールを管理・構成することができます。
- ユーザーはこれらのアラートルールに対してアクション グループを構成することができます。

ポイント

- アラート ベースのスマート検出のプレビュー バージョンに移行しない場合は、スマート検出 (クラシック) を引き続き使用できます。



- Public preview: Alerts based smart detection for Application Insights
<https://azure.microsoft.com/ja-jp/updates/public-preview-alerts-based-smart-detection-for-application-insights/>

Azure Maps Mobility Services が2021年10月に終了

サービス終了

Platform as a Service

- 現在プレビュー中の Azure Maps Mobility Services が 2021年10月5日にサービスを終了します。
- 本サービスを使用している場合はサービス終了までに以下の移行アクションが必要です。
 - Azure Maps Mobility Services の「[Get Transit Route API](#)」は、[Bing Maps Calculate a Route API](#)を使用してください。
 - Bing Maps for Enterprise が現在サポートしていない Azure Maps Mobility Services の API については、[Moovit Public Transit API](#)を使用してください。
- ガイダンスについては [Azure Maps Mobility Services Preview](#) のドキュメントを参照してください。
- 技術的なサポートが必要な場合は、[サポートリクエスト](#)を作成してください。(要サポートプラン契約)

- Azure Maps Mobility Services Preview will be retired on 5 October 2021
<https://azure.microsoft.com/ja-jp/updates/azure-maps-mobility-services-preview-retirement/>

Azure Functions / App Services で .NET6 がプレビュー使用可能

プレビュー

Platform as a Service

- Azure Functions および App Service にて次期 .NET LTSバージョンである .NET6のプレビューバージョン .NET 6 Preview 4 が使用可能になりました。
- Azure Functions は V4 の早期プレビューで、.NET 6.0 関数を実行できます。
 - .NET 6.0 のファンクションアプリを作成、実行、デプロイするためのローカルツールのサポートは、現在、Azure Functions Core Tools V4 のプレビューリリースに限られています。

Azure Functions Core Tools V4 が必要



```
Azure Functions Core Tools
Core Tools Version: 4.0.3594 Commit
Function Runtime Version: 4.0.0.15799
```

```
<Project Sdk="Microsoft.NET.Sdk">
  <PropertyGroup>
    <TargetFramework>net6.0</TargetFramework>
    <AzureFunctionsVersion>v3</AzureFunctionsVersion>
  </PropertyGroup>
  <ItemGroup>
```

- What's new with .NET on Azure Functions – June 2021
<https://techcommunity.microsoft.com/t5/apps-on-azure/what-s-new-with-net-on-azure-functions-june-2021/ba-p/2428669>
- .NET 6 Preview on App Service
<https://azure.github.io/AppService/2021/06/09/Dot-Net-6-Preview-on-App-Service.html>

セルフサービス パスワード リセットの提供

一般公開

Identity and Security

- Azure AD B2C では、サインイン（推奨）とサインアップとサインイン（推奨）のユーザー フローでセルフサービスパスワードリセットの機能を一般提供開始しました。開発者は、ユーザー フローのオプションからセルフサービスパスワードリセットの設定を有効化することが可能です。

プロパティのオプションで、セルフパスワードリセットを有効化可能

ポイント

- "Phone/Email signup" の結合されたローカル アカウント認証では、セルフサービスパスワードリセットは利用不可
- ページレイアウトのバージョン 2.1.2 以降でサポート

- Azure Active Directory B2C でパスワードのリセット フローを設定する

<https://docs.microsoft.com/ja-jp/azure/active-directory-b2c/add-password-reset-policy?pivots=b2c-user-flow>

“サインインしたままにする (KMSI)” の提供

一般公開

Identity and Security

- Azure AD B2C では、ユーザー フローで“サインインしたままにする (KMSI)” の機能を一般提供開始しました。開発者は、本オプションでブラウザに資格情報を残すことが可能です。ユーザーは、ブラウザを閉じてもユーザー名とパスワードの入力を省略することができます。

電話番号またはメールアドレスでサインインする

電話番号またはメールアドレス

サインインしたままにする

サインイン

アカウントをお持ちでない場合 電話 または 電子メール でサインアップする

Microsoft

セッションの動作

Web アプリのセッションの有効期間 (分) ① 1440

Web アプリのセッションタイムアウト ① 絶対値 ローリング

シングル サインオン構成 ① テナント アプリケーション ポリシー 無効

ログアウト要求に ID トークンが必要 ① いいえ はい

[セッションにサインインしたままにする] を有効にする ①

セッションにサインインしたままにする (日数) 30 ✓

① サインインしたままにすると、セッション日数はローカル アカウントにのみ適用され、シングルサインオン構成がオーバーライドされます。詳細情報。

ポイント

- 資格情報はサインアウトすることで失効
- 公共のコンピュータを利用するアプリでの有効は、非推奨

- "サインインしたままにする (KMSI)" を有効にする

<https://docs.microsoft.com/ja-jp/azure/active-directory-b2c/session-behavior?pivot=b2c-custom-policy#enable-keep-me-signed-in-kmsi>

Access Review Graph API の提供開始

一般公開

Identity and Security

- Azure AD では、Access Review の Graph API を一般提供開始しました。管理者は、アクセスレビューの定義を Graph API を利用してプログラムで管理することが可能です。繰り返しのアクセスレビューなどを円滑に準備および実施することができます。



The screenshot shows the Microsoft Graph API Explorer interface. The URL bar contains the endpoint `https://graph.microsoft.com/v1.0/identityGovernance/accessReviews/definitions`, which is highlighted with a red box. The response is a JSON object with the following structure:

```
["@odata.context": "https://graph.microsoft.com/v1.0/$metadata#identityGovernance/accessReviews/definitions",
"@odata.count": 14,
"value": [
  {
    "id": "f5f1eafe-af95-4f13-8466-169a5f274c98",
    "displayName": "Microsoft 365 グループ間のゲスト アクセスをレビューする",
    "createdDateTime": "2021-01-24T13:11:25.49774922",
    "lastModifiedDateTime": "2021-02-04T15:00:13.54154562",
    "status": "Completed",
    "descriptionForAdmins": "",
    "descriptionForReviewers": "",
    "createdBy": {
      "id": "1650bfd6-a037-40ba-8149-713be681addc",
      "displayName": "takahashi",
```

ポイント

- Access Review 機能は Azure AD P2 以上のライセンスが必要
- リストAPI の既定のページサイズは、100レビュー定義となるため、結果セットの効率化およびタイムアウトを回避するためにクエリの活用を検討

- accessReviewScheduleDefinition リソースの種類

<https://docs.microsoft.com/ja-jp/graph/api/resources/accessreviewscheduledefinition?view=graph-rest-1.0>

Azure AD の TLS 1.0/1.1/3DES 廃止について

アナウンス

Identity and Security

- Azure AD は、TLS 1.0/1.1/3DES 暗号スイートの廃止を予定しています。以前の廃止予定日 2021/6/30 が2022/1/31 に延期されました。廃止予定日までに Azure AD にアクセスする全ての環境が TLS 1.2 をサポートしている状況であることをご確認ください。また、Azure AD サーバーと通信する共通サービスが TLS 1.2 を利用する状況になっているかをご確認ください。

Azure 1.1 および 1.0 AD環境での TLS 1.2 のサポートを有効にする

2021/05/06

テナントのセキュリティ体制を改修し、業界標準に準拠するために、Microsoft Azure Active Directory (Azure AD) は、次のトランスポート層セキュリティ (TLS) プロトコルと暗号のサポートを廃止または停止します。

- TLS 1.1
- TLS 1.0
- 3DES 暗号スイート (TLS_RSA_WITH_3DES_EDE_CBC_SHA)

この変更が組織に与える影響

TLS 1.2 を使用して通信できない Azure Active Directory に対して通信または認証を行っているアプリケーションは、期待した通り動作しない可能性があります。この状況には、Azure AD Connect、Azure AD PowerShell、Azure AD アプリケーション プロキシ、コネクタ、PTA エージェント、レガシーブラウザ、Azure AD と統合されたアプリケーションが含まれます。

この変更が行われた理由

これらのプロトコルと暗号は、次の理由で廃止されています。

- 脆弱リスクおよび承認管理プログラム @SP8AMF14 の脆弱性ロコンプライアンス基準に準拠するために。
- ユーザークラウド サービスを操作する際のセキュリティを向上させる。

サービスは、次の日付で廃止されています。

- 2021 年 3 月 31 日から始まる米国政府機関インスタンスの TLS 1.0、1.1、3DES 暗号スイート。
- 2022 年 1 月 31 日から公開インスタンスの TLS 1.0、1.1、3DES 暗号スイート。(この日付は 2021 年 6 月 30 日から 2022 年 1 月 31 日に延期され、管理者が従来の TLS プロトコルと暗号 (TLS 1.0/1.1 および 3DES) への依存を削除する時間が長くなっています。)

◆ 共通サービス (以下の TLS 1.2 対応状況の確認を推奨)

- Azure AD Connect (最新版)
- Azure AD Connect Authentication Agent (PTA Agent) (version 1.5.643.0 以降)
- Azure Application Proxy (version 1.5.1526.0 以降で TLS 1.2 強制)
- Azure MFA を構成した AD FS サーバー
- NPS extension for Azure AD MFA を構成した NPS サーバー

その他、エージェント、サービス、コネクタも最新バージョンの利用と TLS 1.2 対応状況を確認

Azure AD Connect の対応方法に関するサポート Blog

<https://jpaazureid.github.io/blog/azure-active-directory-connect/azure-ad-connect-tls/>

ポイント

- 日本の Azure AD テナントは、Public Instances に含まれるため、2022/1/31 廃止予定
- PC 端末、スマートフォン、各種サーバーの全てが対象
- 一般的なクライアント環境での TLS 1.2 非サポート環境については以下技術情報を参照
- 古いバージョンの OS、.NET Framework についてはレジストリ設定またはバージョン アップを検討

- Enable support for TLS 1.2 in your environment for Azure AD TLS 1.1 and 1.0 deprecation
<https://docs.microsoft.com/ja-jp/troubleshoot/azure/active-directory/enable-support-tls-environment>

Azure Database for PostgreSQL Flexible Server / MySQL Flexible Server フレキシブル サーバーを無料アカウントでも利用可能に

アナウンス

Data Platform

2021 年 6 月から Azure Database for PostgreSQL フレキシブル サーバーと Azure Database for MySQL のフレキシブル サーバーを Azure 無料アカウントで無料でお試しいただけるようになります。

今回の更新のポイント

- Flexible Server をアプリケーションの開発やテストに試用したり、運用環境の小規模なワークロードを無料でご実行いただけます

製品の種類	最初の12 カ月間の特典の内容
PostgreSQL フレキシブル サーバー	最大 750 時間分の B1ms と 32GB のストレージ、32GB のバックアップストレージ
MySQL フレキシブル サーバー	最大 750 時間分の B1ms コンピュート SKU と 32GB のストレージ

- ご利用開始から 12 ヶ月以降は、標準の従量課金料金が課金されます

- Azure Database for MySQL – Flexible Server: Azure Free offer coming soon
<https://azure.microsoft.com/ja-jp/updates/azure-database-for-mysql-flexible-server-azure-free-offer-coming-soon/>
- Azure Database for PostgreSQL – Flexible Server: Azure Free offer coming soon
<https://azure.microsoft.com/ja-jp/updates/azure-database-for-postgresql-flexible-server-azure-free-offer-coming-soon/>

Azure Data Factory & Azure Synapse Analytics データフローに SQL Server が対応します

一般公開

Data Platform

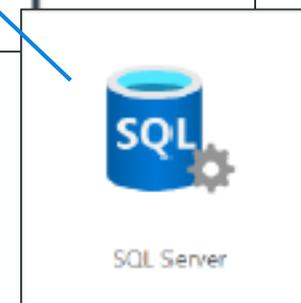
ビジュアル データ変換ツールであるデータ フローがオンプレミスや Azure VM 上の SQL Server にネイティブに接続可能となりました。

今回の更新のポイント

- データ フローは視覚的にデータ変換を行うことができるツールです
- Azure Data Factory や Synapse Analytics でお使いいただけます
- オンプレミスや Azure VM 上の SQL Server をデータ フローの画面にてソース元として指定可能です

注意事項

- 3 種類の統合ランタイムの内、Data Flow の処理に関しては Azure IR のみがサポートします
- Azure-SSIS 統合ランタイムは SSIS パッケージ実行専用となり、セルフ ホスティッド IR はデータの移動や、アクティビティのディスパッチのみをサポートしております
(データの移動や、アクティビティのディスパッチは Azure IR でもご実行いただけます)



- General availability: Support for SQL Server in data flows using Azure Data Factory & Azure Synapse
<https://azure.microsoft.com/ja-jp/updates/azure-data-factory-announces-general-availability-for-sql-server-in-data-flows/>

Azure SQL Database ハイパースケールにて名前付きレプリカの機能をプレビューでご利用いただけます。

今回の Update のポイント

- 同じ大規模データを利用する複数のワークロード (OLTP、分析処理) に対応することがが出来ます
- レプリカ毎に独自のログインを作成することが可能であるため、アクセス分離が可能となります
- 名前付きレプリカ毎に異なるサービス レベル目標を持つことが可能であるため、ワークロードに合わせた異なるサービス レベル目標の設定が可能になります
- 最大 30 個の名前付きレプリカを数台ごとにグループ化することが可能であるため、ワークロードにパフォーマンス・コスト調整を行うことができます

注意事項

- 名前付きレプリカは最大 30 個まで構築することができます
- プライマリ レプリカと別の論理サーバーに配置することはできますが、論理サーバーはプライマリ レプリカと同一リージョンである必要があります

- Azure SQL Database Hyperscale named replicas are now in preview

<https://techcommunity.microsoft.com/t5/azure-sql/azure-sql-database-hyperscale-named-replicas-are-now-in-preview/ba-p/2451150>

Azure SQL Database & Azure SQL Managed Instance Azure AD 認証のみに限定させることが可能に

プレビュー

Data Platform

Azure SQL Database と Azure SQL Managed Instance にて Azure AD 認証を使用しているユーザーのみがサーバー、または、データベースへの接続が承認されるように構成できます。

今回の Update のポイント

- 「Azure AD-only authentication」を有効にすると、SQL 認証を用いた認証が禁止されます
- 「Azure AD-only authentication」の設定は、所有者、共同作成者、グローバル管理者、SQL セキュリティ マネージャーの RBAC ロールが割り当てられたユーザーのみが変更することができます

注意事項

- 現時点では、Azure SQL Managed Instance に関しては Azure Portal からこちらの設定を行うことができません
- SQL Server Contributor や SQL Managed Instance Contributor のロールでは、「Azure AD-only authentication」の設定を変更することができません
- 「Azure AD-only authentication」が有効になっている場合、サーバー管理者のパスワードをリセットすることができないため、リセットを行う場合には「Azure AD-only authentication」を無効化する必要があります

- Azure AD-only authentication with Azure SQL
<https://docs.microsoft.com/en-us/azure/azure-sql/database/authentication-azure-ad-only-authentication?tabs=azure-cli>

Azure Cosmos DB

ログ上にクエリのフルテキストを表示することが可能に

プレビュー

Data Platform

Azure Cosmos DB にて「フル テキスト クエリ (Full text query)」を有効化することで、クエリのフル テキストを Azure Monitor 上のログに出力させることが可能となります。

今回の更新のポイント

- Azure Cosmos DB ではトラブルシューティング用に詳細なログ記録機能を備えています
- フル テキスト クエリを有効化することで、Azure Cosmos DB アカウント内の全ての要求のクエリをログ上で表示できるようになります

注意事項

- こちらの機能を常時有効化すると Azure Monitor のコストが上がるのが想定されるため、トラブル シュート終了後は機能を無効化することをお勧めいたします

- Full text query in diagnostics logs for Azure Cosmos DB in general availability
<https://azure.microsoft.com/ja-jp/updates/full-text-query-in-diagnostics-logs-for-azure-cosmos-db-in-general-availability/>



Contact Us

お問い合わせ先：

東京エレクトロデバイス株式会社
クラウドIoTカンパニー
エッジクラウドソリューション部

URL: <https://cptechweb.teldevice.co.jp/>



東京エレクトロン デバイス株式会社
